

第2回ものづくりマイスター推進会議 議事概要

日時：平成25年12月10日（火）15:00-17:00

事務局、中央技能振興センター及び東京都技能振興コーナーからの事業進捗状況等の報告を踏まえ、構成員より以下のような意見。

【学校への派遣・連携・協力】

- ものづくり体験を実施した際に、「教師が（実技を）知らないのはどういうことか」との指摘を受けたことがあり、教師を対象とした講演等を実施すべき。
- 若者がものづくりマイスターの持っている、本物の技能を見ることが大切であり、学校への派遣を積極的に実施すべき。
- （ものづくりマイスター事業とは別に）インターンシップで、工業高校から生徒を3日間程度受け入れているが、これでは何もできない、少なくとも一週間は現場常駐が必要。逆に、ものづくりマイスターが学校へ出向き、仕事内容を示すことも考えられるのではないか。
- 都道府県の連携会議等による地域の関係機関の連携確保は重要。中学校は市町村も意識して取り組むことが必要。また、DVDの活用などが効果的。
- 小学生等の興味を引くため、ものづくりマイスターバッチなどが必要であり、ものづくりマイスターの気運も高まる。小中学生が対象なら、マスコットやゆるキャラも考えられる。
- ものづくり体験について、学校側がどんなものかわからないため、教育現場にリアルな（作品現物等の）情報提供が必要。業界団体側もメニューを考えていく必要がある。
- 団塊世代のものづくりマイスターが多いとのことだが、工業高校等の実技指導については、年代の近い中堅のものづくりマイスターの方がやりやすいのではないかという印象。
- いかに活用してもらうかが肝要、学校側は総じてスタンスが堅い。そのことも踏まえ、必要な要望を文科省に出し、指示をしてもらうべき。

【指導先の開拓・内容の充実】

- 指導を行ってこそものづくりマイスター。ただ現状ではものづくりマイスター全員が指導に当たるのは難しく、現状の情報提供等によるモチベーション確保が必要。

- 指導先の確保に当たり、都道府県技能振興コーナーのコーディネーターがより活発に動く必要がある。
- ものづくりマイスターの指導事例については、若者に親和性のあるユーチューブ等の媒体でも提供すべき。そのためにも、ポータルサイトの準備を急ぐべき。
- 大規模企業においては採用後に育成を行っているが、ものづくりマイスターの指導対象となる基本技能など、ベースとなる力が付与されていた方が良い。

【その他】

- 地方で聴き取った話だが、企業等20回、工業高校等10回と実技指導回数に枠が設けられているが、指導効果を挙げる上で不足の場合があるのではないか。
- 製造業、建設業で働く技能者が、将来を描けるような価値観を社会が持つことが必要。また企業も待遇改善等含め、若者が進んで就職できる環境整備を行う必要がある。
- 学卒者の離職率について「七五三」と言われるが、技能検定に合格したスキルを持つ若者の離職率は、十数%と有意に低いというデータもある。しっかりスキルを身につけることがいかに大切かということ。
- ものづくりマイスターに指導を受けた「次世代の技能者」達について、継続して技能向上を図っていくことが必要。団塊世代の次の世代のものづくりマイスターがいなくなるといった懸念も。